

## 射水市スポーツ推進審議会議事録

期日：平成26年11月11日（火）13:30～

場所：射水市役所下庁舎2F会議室

出席者：委員：梅尾委員、勝山委員、前田委員、  
黒田委員、越後委員、佐伯委員、  
高坂委員、森田委員、西田委員、  
久岡委員

事務局：結城教育長、橋詰次長、島田課長、  
宮本課長補佐、久々江学校教育係長、  
沼崎主査、武田主任

【開会のあいさつ】（結城教育長）

【委員と事務局の自己紹介】

【スポーツ推進審議会委員の規定説明】（宮本課長補佐）

【会長、副会長の選出】勝山会長、佐伯副会長

【会長、副会長の挨拶】

【審議進行】（勝山会長）

【内容説明】

- 1 「射水市スポーツ推進計画」について
- 2 「概要」説明
- 3 「平成26年度主要事業」説明（資料1にて）
- 4 「施策目標達成のための参考となる指標」説明（資料2にて）
- 5 「第2次射水市総合計画基本計画」（抜粋）説明

【質疑応答】

質問（委員）

体育館の非構造部材の点検をされているのなら、その結果を教えてほしい。

（当局）

市の施設の担当課と一緒に点検を行った。内容については吊り天井器具と照明器具、バスケットゴールなど設置物の安全についての点検を実施。基本的に、小杉体育センター、小杉体育館の吊り天井、照明器具についてはすべての体育館がなんらかの対応が必要。バスケットゴール等を設置している体育館については、おおむね良好。

（委員）

学校関係は吊り天井の耐震工事が終わっている。学校開放の体育館については終わっているが、言及の所は、今年度中に終えるのか。

(当局)

今年度は行わない。やるとすれば天井の補修と併せて行くと、具体的に何年度になるかは未決定である。

## 6 「公共スポーツ施設の見直し状況」の説明(資料3にて)(当局)

### 【質疑応答】

(委員)

大島中央グラウンドなどを見直しの状況で、利用の予約とかの管理も含めて全て地域への移管の検討なのか。大島中央公園コミュニティ広場と大島体育館と近くにあるのが、利用者からは施設を同じ所で予約したいという声が出ている。すぐには難しいことだが、グラウンドと体育館の管理が全て同じになるのか、それとも移管される場所での管理になるのか。

(当局)

この管理については、それぞれの場所によって、例えば体育館とグラウンドが近づいていたりいろいろな形態があり、違いがある。全て地域に移管するのではなくて、使っておられる方が使い易い管理の仕方について検討する必要がある。

(委員)

小学校の陸上大会は、現在射水市で行われていない、なんとかしなくてはだめなのではないかという声がある所である。たとえば、新港の森の陸上競技場の300mトラックを改良して使う等。

(当局)

陸上競技場の射水市の建設については、以前からも確かに出ていた話で、小杉の歌の森グラウンドの方で一時計画されていた時もあるが、実際に小学生のリレー公認の施設となると、高岡市の城光寺陸上競技場に市の方からバス代補助で行っている状況。今後もそうだが、全ての種目において射水市でできれば、一番よいが、財政的なことが関係してくる。実際、陸上競技場の使用については、小学生。例えば、射水市民体育大会においても、陸上の一般の参加はない。それを鑑みると、実際に射水市にとって陸上競技場がどこまで必要なのか。それが課題となる。莫大な財政的な問題もあり、その利便性も含めて考えていく必要がある、今すぐ作るという話はない。

(委員)

例えば、新港の森の設備をよくするという方向性はないか。

(当局) 県営施設なので、働きかけることはやっていく。

(委員)

推進計画で、基づく施策があったが、目標値があり、スポーツを推進するということと

施設は、表裏一体。ところが、施設を減らす方向ということ、市民にどう理解してもらうか。合併して、たくさん施設があるから多いのではという議論があるが、目標値を掲げて取り組む以上は施設が充実していないと、達成できないのではないかと思う。今後、このことをこの会議で検討するのかわからないが。

(当局)

このことは根本的なところ。合併だけでなく、少子高齢化・人口減少の時代の中で、市の財政面からすると、限られたお金をどう使い、無駄をどう省くかという問題がある。市全体ではそうだが、スポーツ振興の面からいうと、市民が、なるべく近い所で十分に楽しんでいただけるように、資金も十分に確保し、施設も充実させていきたい。その面が裏腹な関係にあるのは確かである。ニーズに対して限られた制約の中で、場所を提供していいのかということ、真剣に考えるべき難しい課題だと認識している。

#### 【全体に関して、質疑応答】

(委員)

「チャレンジ3015」とは何か。

(当局)

県の事業であり、いろんな運動に日常的に取り組みたいということで、「すごろく」のような基準の物をつくり、走ったり跳んだりいろんな動きをチャレンジできたら塗って行って順番に進んでいく。それが立山の頂上まで進めようという記録表を持たせている。かなり子どもたちがチャレンジしてクリアしていている。それを100%に近づけようと、考えているところである。

(委員)

「いつでも どこでも だれでも」という取り組みということで、よいと思うが、私も一昨年、野球スポーツ少年団の父母会長となり、その立場で見ると今後子どもたちがだれでも運動ができる環境は、もっと減っていく状況にあると感じている。子どもが野球やサッカーをやりたいと言っても、親が入れさせないケースが多くなっていると感じている。そういう面でこの達成率を高めようと思ったら金銭的な面以外でもいろんな政策が必要なのではないかと思っているので、考えていただけたらよい。

(会長)

少年団でも少子化は大きな問題で、団の数が徐々に減っている。マンモス校などの優秀なところは何をさせても強いということで、そこに子どもが行ってしまう。小規模校の所は、10、11人でやっている。こういう所に救済できる手はないかと話している。部活動も、同様に長続きさせる救済策はないか検討している。

(委員)

野球の現状でも、審判も全部保護者が行っている。保護者が出てこれなければ、子どもが肩身がせまいという状況があつて、そこに何か投げかけられないかと思う。

(会長)

試合をするという時に、「朝ごはんを食べてきた？」と聞くと3割ぐらいの子しか食べてきていない。お昼はコンビニの弁当で済ませる場合もある。いい方法があればお聞きしたいものです。

ないようであれば、これで会を閉じさせていただきます。本日は、みなさんありがとうございました。